

2017年(平成29年)6月9日(金曜日)

(第3種郵便物認可)

手拍子を工夫して応援歌を作る音楽の授業。視察団のメンバーらが見守った



カンボジアの再建を進める現地の教育関係者ら約20人が7日、つくば市の市立葛城小学校(豊島豊校長)を訪れ、4年生の音楽授業を視察した。

音楽の授業「素晴らしい」

つくばの小学校 カンボジアから視察

カンボジアでは1970年代の内戦や王政で国が荒廃し、現在も復興への取り組みが続いている。教育制度の充実もその一つで、音楽や芸術についても、自国の文化を守りながら西洋音楽も取り入れる方法を検討している。

今回の視察は、同国での音楽教育プログラム作りの助言をしている田中健次・茨城大教授らの協力で実現した。

今回の授業は「リズム」がテーマで、教材が少ないカンボジアの事情に合わせて、楽器などを使わないよう工夫した。子供たちはいくつかの班に分かれ、手拍子と言葉を組み合わせ、参

観者の名前を入れた即興の「応援歌」を制作し披露した。

授業後、同国教育・青少年・スポーツ省のモク・サロン氏は「このような授業は初めて見た。児童たちが積極的に参加しており、素晴らしいことだと思う」と話した。